

都市再生整備計画 事後評価シート

健康都市中央地区

平成27年3月

愛知県尾張旭市

様式2-1 評価結果のまとめ

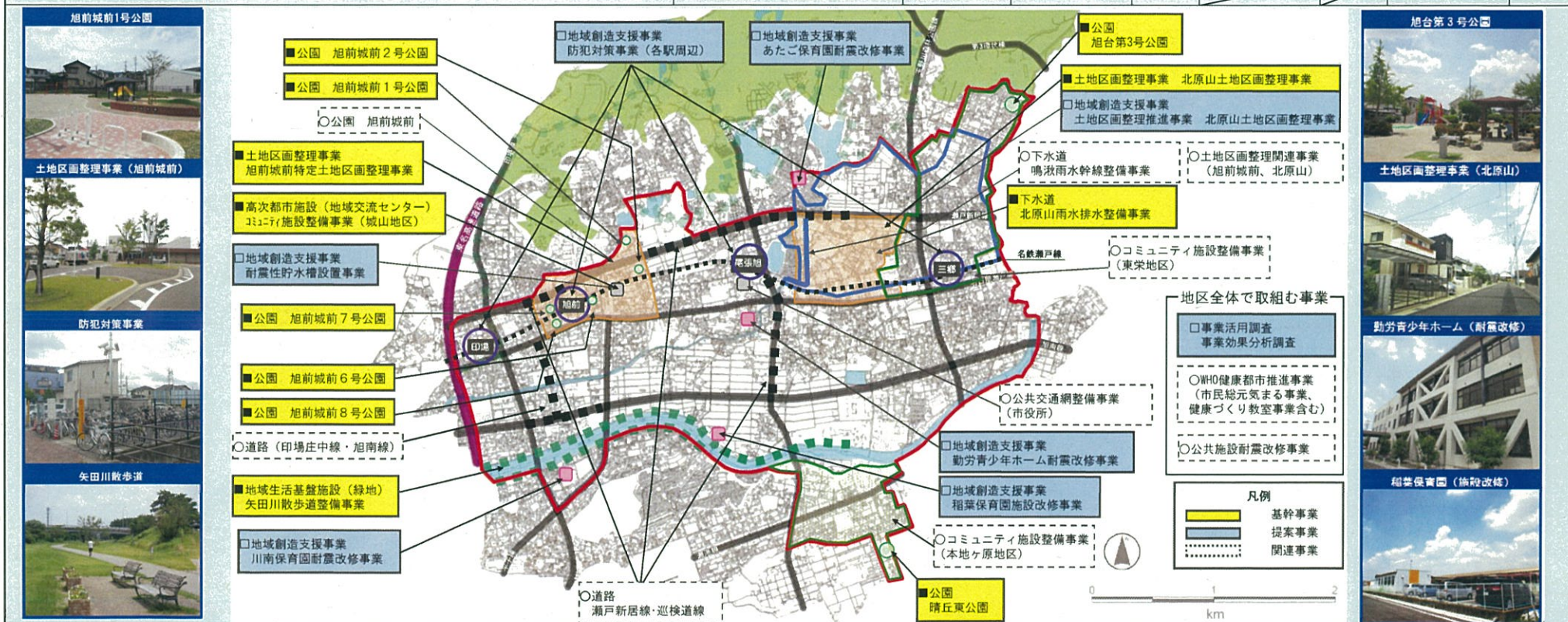
都道府県名	愛知県		市町村名	尾張旭市		地区名	健康都市中央地区			面積	952ha			
交付期間	平成22年度～平成26年度		事後評価実施時期	平成26年度		交付対象事業費	1,914百万円	国費率	0.4					
1)事業の実施状況	事業名													
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	公園(旭台第3号公園、晴丘東公園)、下水道(北原山雨水排水、鳴湊雨水排水)、地域生活基盤施設(矢田川散歩道、耐震性貯水槽)、高次都市施設(コミュニティ施設)、土地区画整理事業(旭前城前、北原山)											
		提案事業	地域創造支援事業(川南保育園耐震改修、あたご保育園耐震改修、稲葉保育園施設改修)、事業活用調査(事後評価調査)											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	下水道(鳴湊雨水排水)、地域生活基盤施設(耐震性貯水槽設置)			【鳴湊雨水幹線】整備支障物件の移転が進捗せず、整備困難と判断 【耐震性貯水槽】提案事業への振替え			影響なし					
		提案事業	—			—			—					
	新たに追加した事業	基幹事業	公園(旭前城前1号公園、旭前城前6号公園、旭前城前2号公園、旭前城前7号公園、旭前城前8号公園)			【公園】土地区画整理事業進捗により、公園用地確保が可能となったため			事業追加による数値目標への影響は軽微と考えられ、数値目標の変更はない					
		提案事業	地域創造支援事業(勤労青少年ホーム耐震改修、三郷駅・尾張旭駅・旭前駅・印場駅防犯対策、北原山土地区画整理事業、(仮称)城山地区コミュニティ施設耐震性貯水槽設置)			【勤労青年ホーム耐震改修】耐震改修ニーズに合わせた追加 【駅防犯対策】駅周辺の防犯強化ニーズに合わせた追加 【北原山土地区画整理事業】事業促進ニーズに合わせた追加 【耐震性貯水槽設置】基幹事業からの振替え			事業追加による数値目標への影響は軽微と考えられ、数値目標の変更はない					
	交付期間の変更	当初	平成22年度～平成26年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		—							
	変更	変更なし												
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	健康だと思える市民割合	%	81.0	H20	81.0	H26	モニタリング	評価値	87.5(H25)	○	あり なし	WHO健康都市推進事業に加え、総合的な都市基盤整備の取り組みによって快適で健康な暮らしを支える住環境の向上がみられ、指標の改善につながっている。	平成28年3月
	指標2	秩序とやすらぎを感じるまちが形成されていると思う市民割合	%	38.2	H20	48.6	H26		38.7(H25)	△	あり なし	近年の土地区画整理事業等による整備済み街地の面積変動が小さいことから、指標数値の伸びが鈍化していると思われるが、土地区画整理事業による都市基盤整備をベースとして、安全安心なまちづくりにつながる各種事業は着実に進捗している。	平成28年3月	
	指標3	水辺空間を利用している市民割合	%	52.5	H20	53.6	H26		47.7(H25)	△	あり なし	矢田川散歩道は段階的に整備を進めており、今後の継続的整備を踏まえ、もう少し長期的視点で整備効果を評価する必要があると考えている。しかし、矢田川に親しむ会等によるまちづくりへの活動(ウォーキング大会等イベント開催・清掃・植栽等)が活発に行われており、事業を通じた地域コミュニティの創造・活性化に寄与している。	平成28年3月	
	指標4	子育てしやすいまちだと思う保護者割合	%	67.3	H20	73.1	H26		73.0(H25)	○	あり なし	保育施設の改修・拡充に加え、総合的な都市基盤整備の取り組みによって子育て環境の向上がみられ、概ね指標の改善につながっている。なお、土地区画整理事業による良質な住宅供給によって、若年世帯の増加・人口増(児童数増)につながっており、さらなる子育て支援へのサポートが必要と考えている。	平成28年3月	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	秩序ある街区となっている市街地面積割合	%	53.3	H20				53.4(H25)			土地区画整理事業をベースに秩序ある街区形成に寄与する各種事業の取り組みによって、現場レベルでは快適で健康な暮らしを支える住環境が確実に向上している。数値的には、土地区画整理事業の完了(換地処分)に合わせて面積計上することになっており、旭前城前地区の若干の事業完了の遅れによって、数値の伸びはさほど大きくはない。	平成27年12月	
	その他の数値指標2	水辺に親しめる場所・空間への市民満足度	%	82.2	H20				86.4(H25)			指標3「水辺空間を利用している市民割合」では、期待した利用者増加にはつながらなかったが、満足度の視点に立った場合、安定的な満足度の増加傾向がみられ、H25で86.4%に達している。尾張旭市はため池等の水辺を活かした親水公園や継続整備中の矢田川散歩道など水辺空間に親しめる場所・空間が多くあることが、市民満足度に寄与している。	平成28年3月	

4) 定性的な効果 発現状況	・地元住民とのワークショップを通じた公園計画整備を進めていることで、地元住民にとって愛着・やすらぎを感じるまちの空間として公園整備が進められている。また、公園整備後に住民主導で公園愛護会を結成し、清掃・緑化活動等が実践されており、地域コミュニティの形成充実につながっている。 ・矢田川に親しむ会による矢田川散歩道整備・管理への関与により、住民主導で各種イベント(ウォーキング大会等)の企画運営、清掃・緑化活動等が実践されており、地域コミュニティ形成や健康づくり支援につながっている。 ・小学生を対象に、公立の児童クラブのほか、民間による学童クラブも設立されており、子育て環境の向上に寄与していると考えられる。				
5) 実施過程の評価		実施内容	実施状況		今後の対応方針等
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた		
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
	住民参加 プロセス	公園整備計画への地元住民の意向反映(住民参加)を目的として、整備計画策定にワークショップを活用	都市再生整備計画に記載し、実施できた		今後もワークショップを活用した公園整備計画策定を検討
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	○	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
	持続的なまちづくり 体制の構築	・矢田川に親しむ会による矢田川散歩道ウォーキング大会の企画運営、 清掃・緑化活動等を実施 ・公園愛護会による市内公園の清掃活動・緑化活動等の実施	都市再生整備計画に記載し、実施できた		住民主導の公共施設整備維持管理活動(まちづくり参画)を促し、市としてその活動支援を行うことで、持続的なまちづくりにつなげる
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	○	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

様式2-2 地区の概要

健康都市中央地区(愛知県尾張旭市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
(大目標) 「市民が安心して快適な生活を送り、心身ともに健康で充実した暮らしができる環境を整え、いつまでも住み続けたいまちを形成します。」 目標1: 市民の体と心の健康づくり 目標2: 市民が心健やかにまちとふれあえる環境づくり。 目標3: みんなで支え合う社会づくり	健康だと思ふ市民割合	単位: %	81.0	H20	81.0	H26	87.5	H25
	秩序とやすらぎを感じるまちが形成されていると思ふ市民割合	単位: %	38.2	H20	48.6	H26	38.7	H25
	水辺空間を利用している市民割合	単位: %	52.5	H20	53.6	H26	47.7	H25
	子育てしやすいまちだと思ふ保護者割合	単位: %	67.3	H20	73.1	H26	73.0	H25
	秩序ある街区となっている市街地面積割合	単位: %	53.3	H20			53.4	H25
	水辺に親しめる場所・空間への市民満足度	単位: %	82.2	H20			86.4	H25



まちの課題の変化	・高齢者が増えることで、市民自ら健康づくりに積極的に取り組めるまちの環境整備の必要性が高まっている。 ・安全安心なまちづくりとして土地区画整理事業が進められているが、健康増進・子育て環境改善の視点からも、早期の良好な市街地形成が求められている。 ・保育施設の改修等により、待機児童解消への取り組みが適時行われているが、共働き世帯の増加等理由から保育ニーズが高まり、さらなる施設整備及び保育士等の人的な確保が求められている。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	・高齢化社会の進展とともに、健康意識レベルの向上がみられることから、健康づくりへの市民ニーズの変化に対応したソフト・ハード両面で各種支援事業に継続的に取り組む。特にハード面では、運動に関する環境整備として、ウォーキングのための歩道ネットワーク形成、大型公園の各種施設整備等が挙げられる。 ・土地区画整理事業によって整備された良好な住環境は、防災面・健康面で快適な暮らしを支えるものであり、土地区画整理事業や公園整備を継続的、積極的に推進する。特に組合施行である北原山土地区画整理事業は、多くの物件転売を伴うため、計画的な事業推進とその効果発現のためには、事業資金の集中的投下が不可欠であり、都市再生整備計画事業の有効活用による資金の支援を継続する。 ・公園整備、保育園整備、駅周辺の防犯対策で安全・安心な子育て環境の向上を図った。引き続き、各種子育て支援事業を推進し、保育園の施設整備や待機児童解消、児童クラブの充実等にも注力する。